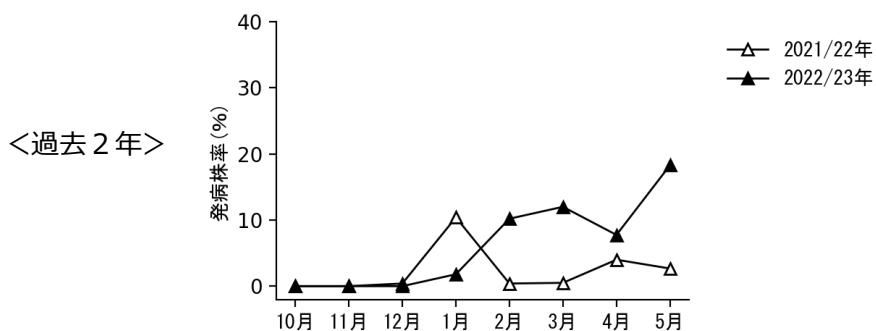
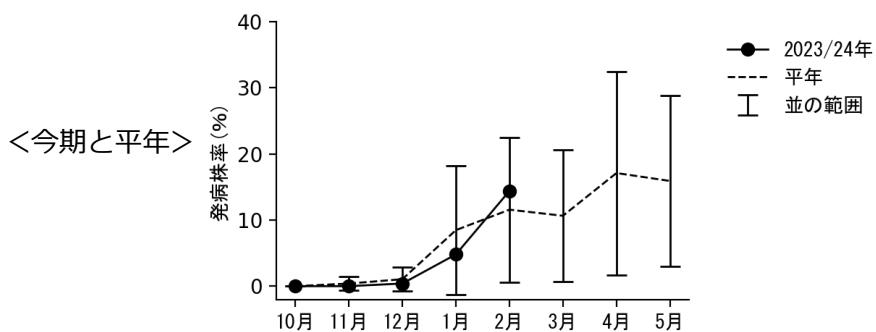


作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

発病株率の推移



- ・発生施設率100% (平年 : 48.3%)

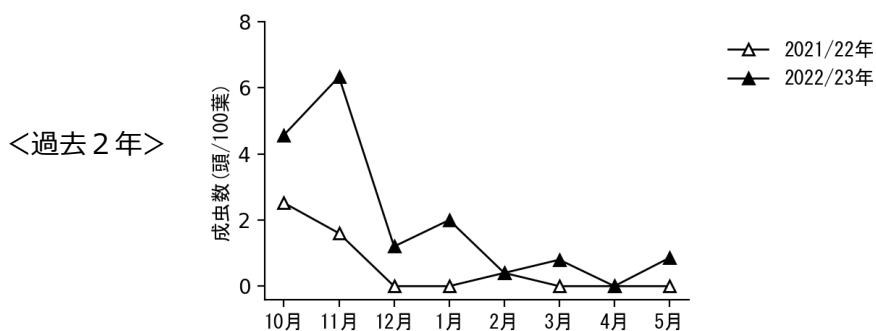
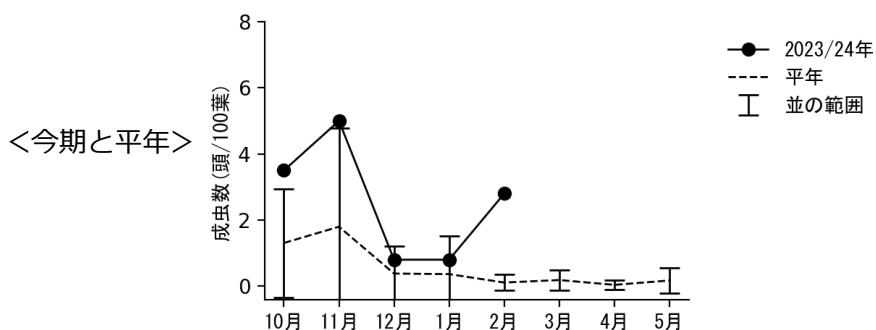
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	(2) ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率40.0% (平年 : 5.5%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

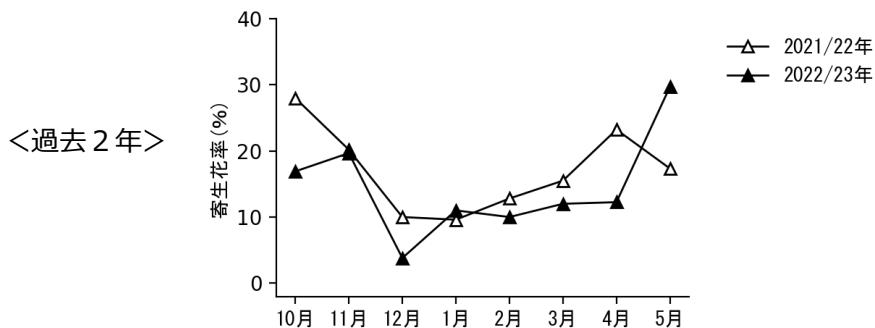
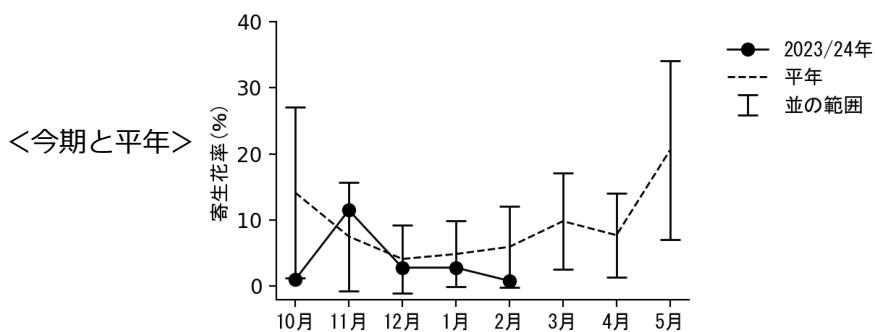


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	(3) ヒラズハナアザミウマ				
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並			
予報	2 月からの増減傾向	↗			
	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)			

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 42.9%)

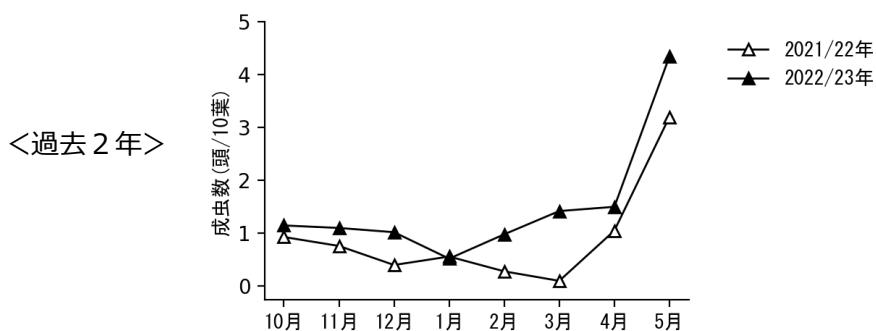
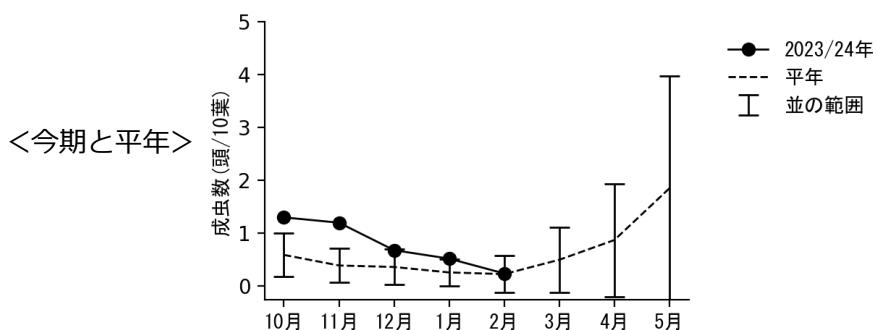
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率80.0% (平年 : 21.8%)

防除のポイント

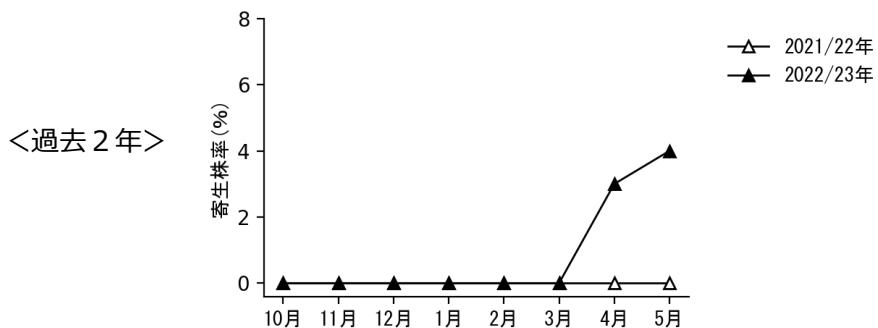
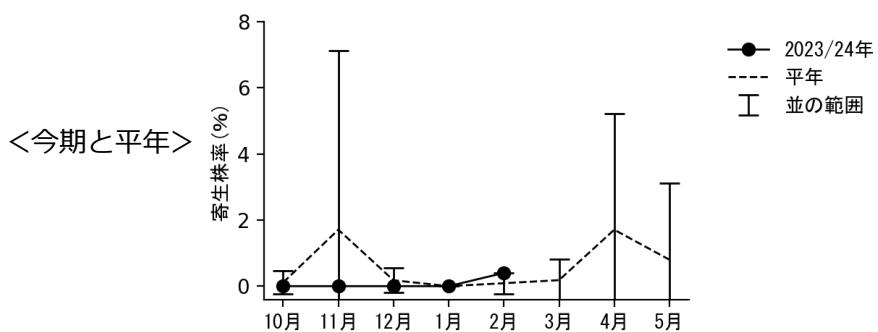
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	(5) アブラムシ類				
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並			
予報	2 月からの増減傾向	→			
	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生施設率 20.0% (平年 : 2.2%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。